おのでら　たかお
小野寺隆夫
（爽志会）

- 「協働のまちづくり」によって何が変わったか
- 「市の一体感は」何をもって醸成するか

質問　「協働のまちづくり」は小沢市政の根幹であると理解している。協働のまちづくりを掲げて今日まで、その成果や課題に対してどのような認識を持っているか。また、それによって何が変わったかについて伺う。

　次に、協働のまちづくり交付金は5ヵ年を年限として各地区振興会に枠配分されている。その後この制度の継続や見直し等についてどう考えているか。

市長　各地区において住民参画や合意形成が対話を基本にさまざまな形で実施されている。課題としては、自治および協働の意識を各地域で育てる手法をどのように構築していくか、研修会や先進事例等の紹介をしながら、意欲を持ったリーダーの育成に努めていく。平成28年度以降のまちづくり交付金制度の継続については、平成25年度に実施する協働のまちづくり支援施策の総合的な見直しの際に検討するが、基本的には継続していきたい。

質問　奥州市が誕生して7年が経過しようとしている。地域の個性を尊重することも大切であるが、奥州市の魅力を内外に発信していくことも大切である。市の一体感、市民の連帯意識の醸成についてどのように考えるか。また、教育現場においては、市の一体感の醸成や、郷土愛を育むということに関してどのような教育や取り組みがされているか。

協働のまちを掲げる奥州市

市長　地域が持つ歴史や伝統文化といった個性や特徴を生かしつつ市民がまちづくりの主役になることで、市全体の活力を育もうと考えている。その上で、奥州市民としての融合に向けた新しい種を播いていきたい。

教育委員長　スポーツ、文化、生涯学習など胆江地区や奥州市全体を対象とした活動や大会を通して市内の子どもたちの交流がある。子どもたちの成長のため、奥州市として全市的に推進すべき事業について検討していきたい。

さとう　くにお
佐藤邦夫
（市民クラブ）

- 江刺総合支所庁舎と岩手県南振興局との相互利用の話し合いの進捗状況は
- 奥州市の活性化のためにも、東北本線の増便、車両の増輛をJRに申し込みを

質問　奥州市本庁のスペースや駐車場不足、県南振興局のスペース不足、建物の老朽化の解消さらには岩手県、奥州市の防災拠点としての利用、ＩＬＣ誘致に向けた活動拠点など、双方にとって有意義かつ効果的と先の議会で提案したが、その進捗状況は？

市長　提案を受けすぐに岩手県に申し入れ、交渉している。その過程において江刺総合支所のスペースの問題や、引越しなどにかかる費用負担の問題などがあり、粘り強く交渉中である。

　引越し費用など話し合えば簡単に解決できると思う。相互交換は岩手県にとっても奥州市にとっても有意義であることをお互いによく認識し合い、早期に交渉成立するように最大限努力する。

質問　北上駅と比較し盛岡までの運行本数は、上下線とも大幅に少ない。また朝の通勤・通学の車両が2両と、乗客が不便を被っている。これを解消するようＪＲに申し入れをすべきだと思う。お金のかからないインフラ整備なので実現に向けて努力して欲しい。

市長　北上は約30分おきに、水沢は1時間に1本と少なく、利用者が不便に感じているのは事実なので、解消すべくＪＲにお願いしていく。

　単独ではなく北上以南の金ヶ崎、奥州、平泉、一関と連携して行動することが有効と思う。

通勤通学時の水沢駅